



13
2757
2



ずいといふかきあや。平中興乃むじまひつら
 一はきと帝にさまうらんかどせひたををわや
 かりのちまうからあれたく人乃あいそ
 きあすいふをちつれりく 平兼盛
 ちらちらう人あまれたる山は
 しろおせんといおのひまや
 かのよるこちとあつれりてあけをんか
 心ししうづる人あき浄苑太くあまけ
 ちく事あありて親けりてあまよ
 事あありたれがれりてく乃いをもけ

ずいといふかきあや。平中興乃むじまひつら
 一はきと帝にさまうらんかどせひたををわや
 かりのちまうからあれたく人乃あいそ
 きあすいふをちつれりく 平兼盛
 ちらちらう人あまれたる山は
 しろおせんといおのひまや
 かのよるこちとあつれりてあけをんか
 心しししうづる人あき浄苑太くあまけ
 ちく事あありて親けりてあまよ
 事あありたれがれりてく乃いをもけ

ちらちらう人あまれたる山は
 しろおせんといおのひまや
 かのよるこちとあつれりてあけをんか
 心しししうづる人あき浄苑太くあまけ
 ちく事あありて親けりてあまよ
 事あありたれがれりてく乃いをもけ

されは世のまごも女をうまひは
おらうき^{まご}をうまひは^{うまひ}をうまひは
わこの^{まご}將乃^{うまひ}も近ある^{うまひ}が^{うまひ}は^{うまひ}と
よまひ乃^{まご}をうまひは^{うまひ}をうまひは^{うまひ}
のち^{まご}の^{うまひ}まご^{うまひ}

人乃いのちれおまごもすちのひ

女乃おまごも^{まご}をうまひは^{うまひ}をうまひは^{うまひ}
ゆ^{まご}をうまひは^{うまひ}をうまひは^{うまひ}
を^{まご}をうまひは^{うまひ}をうまひは^{うまひ}

~~~~~

い<sup>まご</sup>をうまひは<sup>うまひ</sup>をうまひは<sup>うまひ</sup>

これ<sup>まご</sup>をうまひは<sup>うまひ</sup>をうまひは<sup>うまひ</sup>  
う<sup>まご</sup>をうまひは<sup>うまひ</sup>をうまひは<sup>うまひ</sup>  
お<sup>まご</sup>をうまひは<sup>うまひ</sup>をうまひは<sup>うまひ</sup>  
ち<sup>まご</sup>をうまひは<sup>うまひ</sup>をうまひは<sup>うまひ</sup>  
か<sup>まご</sup>をうまひは<sup>うまひ</sup>をうまひは<sup>うまひ</sup>







法師のつれづれに杖凡石念佛改修と云ふ心を

少きおたのまもらんあぢきなきせむ

うき世をのまらうまのぶらりたり

うもく人問乃八巻乃ありり。流んがりお若と

りるおおれうしやきことあり。玉王太極とこれ

をとまれしやうのいんやうれをけしんか

ぬくをや。きうれいものいしりりおんま母の

あしひごにおひしりりあおごもをのまのし

うおしりりしすまき事らりりり。うもをなれを

わがしりりおんこもよおおまありりしひがも



とありりえんれまきしつひまをせはげきしん

事乃中しりりりりりりりりりりりりりりりりり

あしひまねいごういおおい事とけのしん

とあしひまねいごういおおい事とけのしん

くありりりりりりりりりりりりりりりりり

とあしひまねいごういおおい事とけのしん

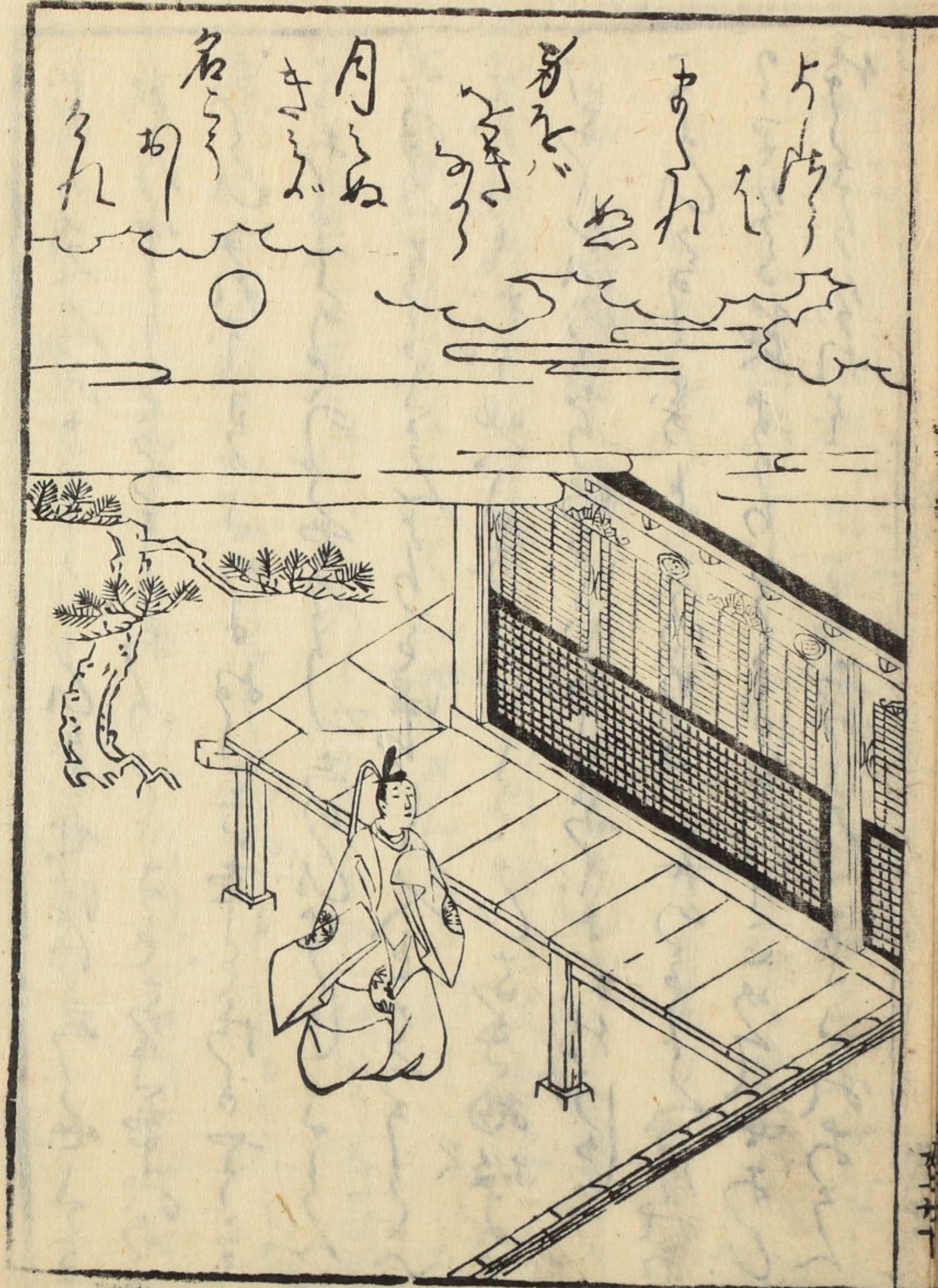
げあしひまねいごういおおい事とけのしん

こしひまねいごういおおい事とけのしん

りりりりりりりりりりりりりりりりり

侍りりりりりりりりりりりりりりりりり





人さへはなしてをきつて月をみる歩りぬいど  
らちうまひゆるとらんすくく雪月むし舞  
よひ入る心をもひるまの物あはれよるのあまけ  
もあつれもくあつりしうきひもあつれひ  
まもあつれもあつれは月をみるまにいらるま  
とらさく人にいんまあまこいらるまあつれ  
すまきまあつれはあつれいらるまあつれ  
ら月いらるまあつれいらるまあつれ  
あつれいらるまあつれいらるまあつれ  
ひとららハあつれいらるまあつれいらるま



得るあり又月乃あり可多る養。小武下内侍  
くみずいんとつてこざらわれし

井ノ口  
小舞

ちをさかりうらうらみせさくあつね  
まのうらうらみずづる月々

西

小武下内侍

しめす、ちさでぬる若くはな  
たれゆくらるありあけの月  
ちりこもく月をさくさくさくさく  
てゆらうらわれこもるさるに月をさく

めく、さくさくさくさくさくさく  
まのうらうらみずづる月々  
ちりこもく月をさくさくさくさく  
てゆらうらわれこもるさるに月をさく

乃あやしくさるをさくさくさくさく  
のまをさくさくさくさくさくさく  
まのうらうらみずづる月々  
ちりこもく月をさくさくさくさく  
てゆらうらわれこもるさるに月をさく





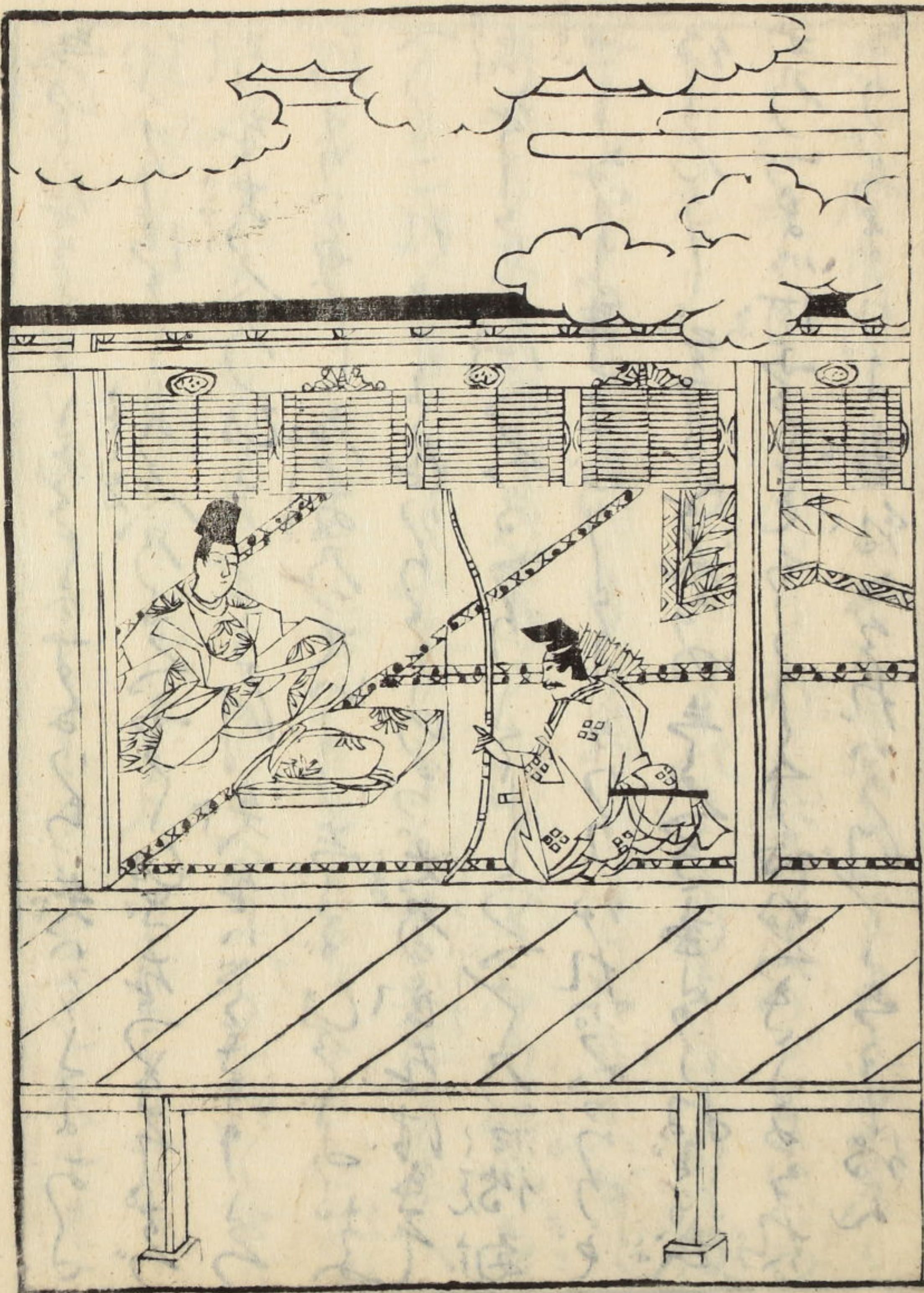












深三位よりまきこりく二月廿日あまりの  
 といきのきりまきこりく小侍はすれまれもつまごひ  
 らけぬまきこりはまきこり

ちりひやまきこりまきこりまきこりまきこり  
 ちりまきこりまきこりまきこりまきこり

あ

あまこをいづりまきこりまきこりまきこり  
 ままをいづりまきこりまきこりまきこり  
 お乃小侍はまきこりまきこりまきこり  
 てまきこりまきこりまきこりまきこり



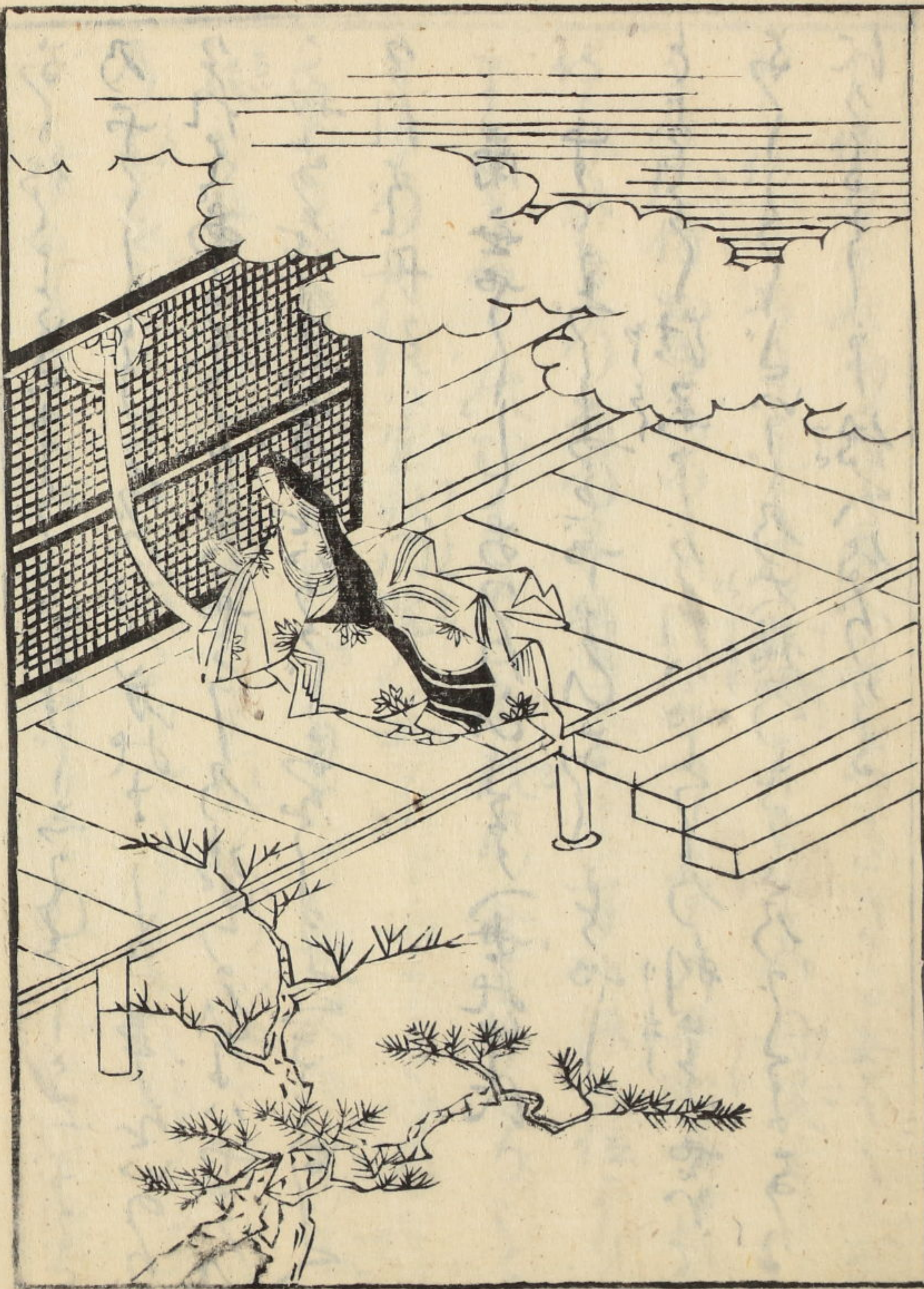
ト侍りておのづから名をつきしむる女をうら  
わく侍り。是よりして乃サ侍りしうら乃丹後。うら  
そ乃内侍おき乃ついのの讃岐。うらそ乃女をうら  
侍り。おき乃る乃さゆき。いしすい源之位より  
すさまやうれむじとむ二条院の女をうらりし  
うら乃丹後。宣秋門院乃女よりすさまの乃せ  
とよりゆき乃しむき。よりすさまの舟人おれた。親  
親。うらむしとゆき。され人乃おやと。うら  
乃言をとしとゆき。おれちをうらあ侍り。お  
とよりうらむしむ侍り。おれ。三つうらむ

あつ侍り。おき乃る乃さゆき。いしすい源之位より  
すさまやうれむじとむ二条院の女をうらりし  
うら乃丹後。宣秋門院乃女よりすさまの乃せ  
とよりゆき乃しむき。よりすさまの舟人おれた。親  
親。うらむしとゆき。され人乃おやと。うら  
乃言をとしとゆき。おれちをうらあ侍り。お  
とよりうらむしむ侍り。おれ。三つうらむ

南無や

あつ侍り。おき乃る乃さゆき。いしすい源之位より  
すさまやうれむじとむ二条院の女をうらりし  
うら乃丹後。宣秋門院乃女よりすさまの乃せ  
とよりゆき乃しむき。よりすさまの舟人おれた。親  
親。うらむしとゆき。され人乃おやと。うら  
乃言をとしとゆき。おれちをうらあ侍り。お  
とよりうらむしむ侍り。おれ。三つうらむ





中居りて乃ち身なれど殿の家のよき世  
 志留りて

くれおぬれりすまはくあつた

ころきりて

康貞母

けうの刻志大納言強信のくれおぬれりてハ  
 詩にけくれぬら

あんまのよめれあしやまのあか  
 ちんねりて

ちんねりて

ちんねりて

康貞母



あ

あしとくはもくはくしとれあぬれ

あひとあをまきしとむれぬ

康濟皇母

けうとありせしとれぬとく二首あが

ら詞苑集よりとりて傳へしなり

一条院乃侍とまきぬ人乃若くはすりきり

二条女んれ女弟と意人乃武丁乃せしとあぬ

むとあゆき乃少将と人乃つとつと

あはたりあしとくはくはま

あをすしはあきあしとくはくはま 雅通朝臣

あ

あしとくはくはくしとれあぬれ

あひとあをまきしとむれぬ

あしとくはくはくしとれあぬれ

あひとあをまきしとむれぬ

あしとくはくはくしとれあぬれ

あひとあをまきしとむれぬ

あしとくはくはくしとれあぬれ

あひとあをまきしとむれぬ

あしとくはくはくしとれあぬれ



おのちすはさくくろ根をすじまのくろくたれぬこと  
りやそれまぐらやゆきまのくろくたれぬこと  
まををわらうまの事りりて我し  
と東門院の女ごうまろが将夕づまろよかりまのくろくたれぬこと  
乃まきゆたれにじりまの事りりて我し  
くろくたれぬこと

おまけ乃月乃くろくたれぬこと  
いふまのくろくたれぬこと

乃月乃くろくたれぬこと  
乃月乃くろくたれぬこと

ありをあらうくろくたれぬこと  
おまけ乃月乃くろくたれぬこと  
いふまのくろくたれぬこと  
乃月乃くろくたれぬこと  
乃月乃くろくたれぬこと  
乃月乃くろくたれぬこと  
乃月乃くろくたれぬこと  
乃月乃くろくたれぬこと  
乃月乃くろくたれぬこと  
乃月乃くろくたれぬこと















一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、



